

議事

1 報告

(1) 利用料金の改定等について

<事務局から利用料金の改定について説明>

【委員】

他の施設と科学館で改定率は同じなのか。教育施設ということで抑えられているのか。

【教育委員会】

全庁的に見直しを行っており、教育施設と他の施設で改定率に変わりはない。一番高いもので約2倍、平均で1.4~1.5倍程度となっている。

今回の改正は、科学館であれば、建設や運営コストを利用者の方が負担するとなるといくらかかるのかということが基本だが、それだと料金が高額になってしまうため、現在の料金に鑑み、最大の上げ幅を2倍や、1.5倍で上限を定めているため、平均で1.5倍程度の料金となっている。

【委員】

教育施設ということで、もう少し料金を抑えていただきたかった。

【教育委員会】

庁内においても、教育施設、子ども関連施設、観光施設など、それぞれの施設でそれぞれの考え方があり、教育委員会としても検討を重ねたが、庁内統一という考え方のもと料金を決定した。そのような中で、減免について、庁内で著しい不均衡があってはならないが、子どもたちの学習の機会の確保という観点から、他の施設には無い春、夏、冬休みの期間の半額減免の設定など、市全体のバランスを崩すことなく教育施設としての対応を行った。

【委員】

30年間据え置きだった料金の改定にあたり、運営に係る経費の増加と、受益者負担である観覧料収入の乖離が大きいという理由だと思うが、今回の改定によって、その乖離がどの程度、改善されると考えているのか。

【教育委員会】

今回の改定については、改定率に最大2倍の上限を定めて改定したものである。

科学館については、建設費用や外壁改修などの多額の経費が掛かっており、今回の改定を行っても、かかる経費と料金収入の乖離が著しく改善するとは考えていない。

【委員】

減免について、児童福祉施設等の中に学童クラブも含むということだが、保育所は含まれるのか。また、幼稚園はどうか。

【教育委員会】

児童福祉施設には保育所も含まれる。また、幼稚園は学校となるので減免の対象となる。

【委員】

60歳以上の観覧者の減免廃止は、市統一なのか。

【教育委員会】

市統一での廃止である。近年は、高齢でも元気でお仕事をされている方などもいらっしゃるので、単に年齢で区切るということは廃止した。

2 議事

(1) 冬の特別展示について（視察含む）

<指定管理者から冬の特別展示の内容を説明後、視察>

【委員】

現在の観覧者数は。

【指定管理者】

11月29日から開催しているが、1月30日現在で6,510名の方に観覧いただいている。

また、併せて関連イベントを実施しているが、約5,500名の観覧者数となっており、併せて約11,000名となっている。

【委員】

特別展示の6,513名と、関連イベントの5,500名は重複を含めての観覧者数か。

【指定管理者】

重複も含めての観覧者数である。

【委員】

長崎大水害の後は大きな災害がないので、油断しているということはあると思うが、時々はこのような、災害を思い出すことができる企画はよいと思う。

【委員】

100円ショップで揃えられるような物が展示されていることは、よいことだと思う。お金をかけなくても、防災はできるということが伝わるような展示になっていると思う。

【委員】

長崎の場合だと、今回のような展示内容で問題ないと思うが、鹿児島、宮崎、愛知、静岡の沿岸部などには、津波から逃げるための防災避難ビルの標識がある。長崎市には、その標識は無いので周知した方がよいと、常々思っている。今回の展示にも防災避難ビルの表示があればよいと思う。

【委員】

体験できる展示も含め興味深い展示であった。各週末に実施されるイベントも特別展示と密接に関連したよい展示だと思う。準備を行った職員は大変だったと思う、関連イベントのスケジュール作成にも労力を割いたと思うが、今後もこのような有意義な展示に期待したい。

(2) 令和7年度の事業報告について

<指定管理者から令和7年度事業報告について説明>

【委員】

事業報告の中で、利用者数の説明があったが、中学生の利用者数は把握しているか。

【指定管理者】

親子の利用者が多いので、やはり小学生以下の子どもの利用者が多い。

【委員】

中島川公園夜間観望会に約70名の参加があったとのことだが、街の中でも星が見られるイベントを実施することはよい取り組みだと思う。他の場所でも科学館が出向いて、同じようなイベントを実施すれば科学館のアピールに繋がると思う。

【指定管理者】

出前サイエンスは実験や工作を主に実施しているが、先日、近隣自治会から依頼があったので実施し好評だった。令和8年度の事業計画では、天体観望を追加することを検討している。

関連となるが、今年度は、ヒルトン長崎と共催し星に関するイベント実施していて、そのイベントの中で星空の解説などを行っている。

【委員】

12月の早く日が沈む頃になると、学校の屋上で惑星観測を行っていたが、天気が良くないと見られないことや、屋上が寒く制服のみでは実施できない状況であった。星を見ると感動するが、早く暗くなって、木星、土星、衛星などを見られる時期は、とてつもなく寒い時期となる。

長崎では、11月くらいが晴天率が高く温度的にもそこまで寒くないが、開催の時期はよく検討した方がよいと思う。

【委員】

自由研究相談室、採集品分類会の参加者がだんだん少なくなってきており、理由としては、小、中学校で自由研究をする子どもたちが減っているのではないかという説明があったが、実際の現場はどのようになっているのか。

【委員】

以前は、理科だけではなくいろいろな課題が出されていたが、課題が多すぎではないか、もっとのびのびと学習するためには多くの課題を課すことは、子どもたちのやる気や、自主性を損なう恐れがあるとの考えにより、各教科で少しずつ課題が減っており、自由研究もその例に漏れずの状況となっているのではないかと考える。

また、教員の働き方改革も、原因の一つではないかと思う。

【委員】

中学生の子どもがいるが、学校側から岩石採集のツアーの案内があり、自由研究にも生かせるので友人と参加していた。

【委員】

理科部会で実施している学校がある。科学館では理科部会と協力し、以前は、海の生物観察、山の植物観察と岩石観察の3つを毎年科学教室として実施していたが、現在は1年ずつ、ローテーションで実施している。

【委員】

主催者側の事情はあると思うが、学校が実施するツアーには実際に多くの子どもたちが参加していて、ニーズはあると考えられる。

【委員】

学校主催の岩石採集のツアーはすぐに定員に達した様子で、科学館の事業から学校側の事業に参加者が流れたのではないかと考えられる。

【委員】

子どもたちも、教師も、いろいろと忙しい状況ではあると思うが、ニーズはあると思う。そのようなニーズをうまくとらえて、科学教室等の在り方を検討してほしい。

【委員】

近年は夏の異常気象で熱中症の恐れもあるため、そもそも外に出ないようになっており、それも原因の一つではないかと思う。

【委員】

今年の採集品分類会では、岩石を持ってくる中学生が多かった。学校で一度教わった事を、科学館の分類会で再確認できることなどから参加者が多かったと思う。

【委員】

夏の特別展示は3部構成だったこともあり観覧者数が少なかったが、夏の企画展、むしむし展の観覧者が約18,000人と盛況だったとの説明があったが、これは、夏休みの展示室無料によることも要因であると思う。来年の実施についても検討されていると思うが、来年は夏休み期間中の無料観覧が無くなり半額となるが、そうなる観覧者数はどのように推移するかが心配である。

今年の観覧者数18,000人のうち、夏休み減免、市内の小学生がどのくらい観覧したのかデータはあるのか。

【指定管理者】

資料を準備していないので回答はできないが、データはある。夏休み期間中の利用者は、市内の方だけではなく県外の方も多かった印象である。帰省してこられた方も来館していただいたのではないかと考えている。

かぶと虫に実際に触れる機会が少ないため、親も含めて楽しまれていた。

【委員】

むしむし展のようなイベントは来年も実施するのか。

【指定管理者】

実施予定であるが、近年の猛暑により、かぶと虫の生育が難しい状況で、科学館でも幼虫から飼育しながら100匹以上のかぶと虫を展示しているが、お盆までには相当数が死んでしまう。厳しい状況ではある。

【委員】

そもそもかぶと虫はお盆までに死んでしまう昆虫なので、難しいと思う。

(3) 令和8年度の事業計画について

<指定管理者から令和8年度の事業計画について説明>

【委員】

前回、本協議会に参加し、各委員の意見を聞かせていただき勉強になった。

近年、子どもの数は減少していて、子どもたちを取り巻く環境も、子ども会や自治会の時代ではなくなってきた。以前は、バスを貸し切って科学館で勉強するなどのイベントを実施していたが、そのような機会も段々減少しているのが現状である。

前回の協議会でも、育成連としての運営協議会委員として本協議会に参加しているので、連携を取りながら協力したいと発言した。子ども会が残っている地域もあるので、出前講座などを行っていただきたい。地域を巻き込んで科学館に足を運ぶ子どもを増やせればと考えている。

広報誌に科学館のイベント情報が載っていれば育成連としても広報できるが、直接、育成連にイベント情報を提供いただければ、各子ども会での出前講座の実施などに協力できると思う。

育成連と科学館で連絡をとりながら、子どもたちの健全育成という観点からも協力していきたい。

【指定管理者】

育成連に対し連絡できなかったことについて申し訳なかった。子ども会や自治会もなくなる地域もある。あらためて協力を申し出ていただいたので連携していきたい。

【委員】

以前はスターシップニュースを紙媒体で作成し各学校へ配布していたが、現在は tetoru で科学館のイベントが配信されている。

【委員】

科学館のイベントは広報ながさきにも掲載している。広報ながさきを見れば情報を得られるが見ない方もいると思う。

【委員】

広報ながさきには、以前に比べ科学館のイベントがあまり掲載されていないのではいか。

【指定管理者】

広報ながさきには、毎月イベント情報を掲載している。広報としては、科学館ホームページやインスタグラムなどを活用している。電子媒体での広報は紙媒体と違い、自主的に検索しなければ情報を得られないとうことはある。

【委員】

広報ながさきには、以前、科学館専用の掲載枠があったが、現在はイベント欄に大きく掲載されている。私としては広報ながさきへの掲載については満足している。

【委員】

Tetoru を利用できるのは、市内の小中学生の保護者の方のみか。

【委員】

メールアドレスを登録された方や、tetoru アプリを利用されている方には、毎週木曜日の 17 時に配信されている。

【委員】

自治会長や民生委員としての観点からも考えているが、今後 10 年で 4 割の方が 65 歳以上の高齢者になる。天体観察など、子どもたちだけではなく高齢者も科学館を利用できるよう考えていただければと思う。

【委員】

科学館は生涯学習の施設でもあるので、幅広い年齢層の方への利用促進を図っていただければと思う。

【委員】

年末の大分の火災では住民同士のつながりがあったから被害者が最小に食い止められたと思う。今回の防災展はあくまでも展示ではあるが、展示を通して人と人が繋がれるような企画、来てよかったと思う企画を実施していただきたい。

また、来年度から料金改定となり観覧者数は減少することも考えられるが、来年度の事業計画のポイントを教えてほしい。

【指定管理者】

特別展示についてもアンケート結果を踏まえ子どもたちが興味をもつものを実施したい。また、今年は、スターシップニュースを紙媒体で配布していないので、それも原因の一つではないかと考えているので、広報にも力を入れていきたい。

【委員】

広報が紙媒体から電子媒体へ移行していく中でも、アンケートは紙媒体での回答が 9 割を超えることを考えると、安易に電子媒体へ移行することについても再検討する必要もで

てくるかもしれない。

【委員】

子どもが減少していく中で、大人向けのイベント実施も利用者増への一つの方策であるが、高齢者が興味をもって参加できるようなイベントを実施することで、利用者の幅が広がると思う。具体的な提案はできないが、模索していくことが科学館の価値を上げることに繋がると思う。

【委員】

今年度の利用者数の減少は、紙媒体での広報を減らしたことも原因の一つであるとの報告だった。電子媒体での広報は、スマートフォンなどを利用していない方は、情報を受け取ることができないので、経費削減としての紙媒体の削減にも意味はあると思うが、料金改定もあるので広報の方法は検討した方がよいと思う。

【教育委員会】

今まで全学校に紙で配布していた広報誌をなくしたことが原因の一つであると考えるが、教員が生徒一人一人に紙の広報誌を配布することにも労力がかかるので、教員の働き方改革の面からの見直しも含め tetoru を利用した広報に移行している。

今後は Tetoru で見てもらえるよう、広報内容の充実など電子媒体でも情報が届くような方法を検討する必要があると考えている。

【委員】

出前講座について、商業施設で行った実績はあるか。

【指定管理者】

ココウォークで、井戸端パーティーという企画の中で簡単な工作などの講座を行った。また、水辺の森公園で開催されたエコライフフェスタにも科学館として出展した。

【会長】

その他に意見が無いようなので、本日の議事を終了する。